



### 第30号にあたって

農産物に被害を与えた猛暑もようやく落ち着き、秋の気配を感じるようになりました。食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋とさまざまな予定を立てていることと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症は第9波といえる流行が続いていますし、季節性インフルエンザが例年より早く流行期を迎えています。理由としては、「5類」に移行したための感染予防に対する気の緩み、最近流行がなかったためのインフルエンザに対する免疫力の低下などがいわれています。活動をしながらも、基本的な感染対策の継続をお願いします。

今回は、病気の知識として「新型コロナとインフルエンザ」と「胸痛」を取りあげました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレス（QRコード）が掲載されていますのでご利用下さい。



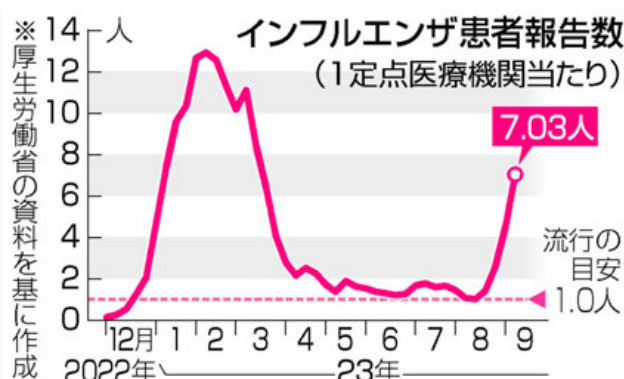
発熱で受診される前の電話連絡、および、受診患者と付き添いの方のマスクの着用を引き続きお願いします！



### 病気の知識

## 新型コロナとインフルエンザ “ 早めのワクチン接種を！ ”

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になりましたが、その後感染は拡大し第9波といえる状況になっています（NHK, 左図）。また、インフルエンザは、例年、秋～翌年の春に流行が見られますが、昨年末から流行が続いており、夏でも途切れず、9月に入って急速に流行が拡大する異例の事態となっています（右図）。
- ・新型コロナウイルス感染者数も、第35週（8/28～9/3）では1 定点医療機関あたり、新潟県で22.65人、新潟市で20.54人と高止まりしており、十分な感染予防が今後も必要です。



- ・インフルエンザの早期流行の原因は明らかではありませんが、新型コロナウイルスに対する感染予防対策により長期間流行起きなかったことによる免疫低下や5類になってからの国外も含めた人の往来の活発化が上げられています。
- ・症状だけで、風邪（かぜ）なのか、インフルエンザなのか、新型コロナなのか、を見分けるのは困難です。目安としての違いを次頁の表に載せましたので参考にして下さい。
- ・診断にはインフルエンザウイルスと新型コロナウイルスを検出する迅速キットを用います。検査時、綿棒を鼻の奥に入れますが、ウイルスの検出率を高めるためです。

	かぜ（普通感冒）	インフルエンザ	新型コロナウイルス（オミクロン株）
感染力	あまり強くない	強い	非常に強い
感染経路	飛沫、接触	飛沫、接触	飛沫、接触、エアロゾル
症状	鼻水・鼻づまり・のどの痛み・くしゃみ・微熱など	突然の高熱（38℃以上）・頭痛・全身けんたい感・関節痛・筋肉痛・咳・鼻水・のどの痛みなど	発熱、強い咽頭痛・けんたい感・腹痛・下痢・咳・味覚障害・嗅覚障害など
潜伏期間	約5～6日	約1～3日	約1～14日
感染力のある期間	発症から1～2日	発症直前から、発症後5-6日（解熱後2日）	発症2日前から、発症後約10日
重症度	多くは軽症	多くは軽症～中等症	重症になりうる
ワクチン	なし	あり、季節毎に有効性は異なる	あり
治療	対症療法	対症療法、抗インフルエンザ薬	対症療法、抗ウイルス薬など

- ・ウイルスに感染してから時間が経っていない場合は、検査結果が陽性にならない場合もあります。容態が悪くなければ、発熱後半日から1日たってからの受診がお勧めです。

#### 【治療】

- ・対症療法のほかに、抗インフルエンザ薬である、「タミフル」などがありますが、発病後 48時間以内に使用しないと効果がありません。抗インフルエンザ薬については当センターで処方しています。
- ・新型コロナウイルスの場合は、対症療法の他に、抗ウイルス薬（「ラゲプリオ」「パキロビッドパック」「ソコーバ」など）があります。抗ウイルス薬については、かかりつけ医できちんと経過観察をしながら治療をしていただくために、当センターでは処方しておりません。翌日以降、かかりつけ医等で処方してもらってください。
- ・他の人に感染させないため、「発熱や風邪症状があったら無理をせず休む」というのは最低限必要です。また、インフルエンザや新型コロナの診断となりましたら、指示されたとおりに療養をお願いします。

自宅で様子をみる



待つ

早めに 病院へ



- ・軽い症状であれば、手持ちの感冒薬で様子を見てください。
- ・症状が強ければ、電話連絡の上、医療機関を受診して下さい。

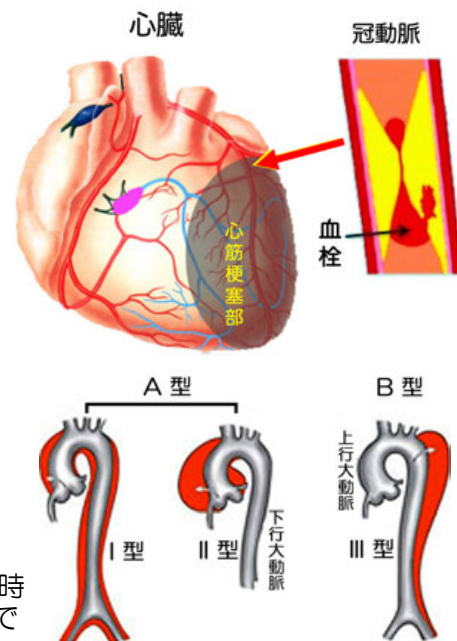
## 胸痛

“原因はいろいろ。一刻を争う胸痛も！”

- ・胸部には、心臓や肺のほかに胸膜、筋肉、神経、骨が存在し、そのため胸痛が生じる原因はいろいろです。胸痛は、軽い症状で心配のないものから、急性心筋梗塞や急性大動脈解離など一刻を争う病気まであるので注意が必要です。

#### 【急性心筋梗塞】

- ・急性心筋梗塞は多くの場合、突然みられる胸部の激痛、締めつけられる感じ、圧迫感として発症します。
- ・胸痛は30分以上持続し冷や汗を伴うことが多く、重症ではショック、心肺停止になります。痛みの部位は前胸部のほかに、下あご、首、左腕、みぞおち、背中にみられることもあります。
- ・原因は、心臓を養う血管（冠動脈）が血の塊（血栓）により詰まることにより突然発症します（右図）。
- ・できるだけ速やかに詰まった冠動脈を再開通させる治療（冠動脈インターベンション）が必要です。



#### 【急性大動脈解離】

- ・症状は、突然みられる激しい胸の痛みや背中での痛みです。
- ・大動脈の壁が剥がれていく恐ろしい病気です。治療が行われなければ48時間以内に約半数の患者さんが亡くなるため、I型、II型を合わせたA型では可能であれば緊急手術となります。（右図）。

心臓血管	*急性心筋梗塞	突然の胸部の激痛や圧迫感、締めつけ感で30分以上続くことが多い。冷や汗や息苦しさ、意識障害がある場合は重症。救急車を要請する。
	狭心症	労作時（階段・坂道・重い物を持ったときなど）に、胸部の痛みや圧迫感がみられ休むと消失する。
	*急性大動脈解離	急激な、胸や背中の引き裂かれるような激しい痛み。救急車を要請する。
	不整脈	脈が乱れると、胸の異和感や痛みを感ずることがある。
肺	気胸	肺のパンクが原因。突然の胸痛、息苦しさ、呼吸困難みられ、空気が漏れ続ける緊張性気胸では、強い呼吸困難、チアノーゼ、ショックがみられ一刻を争う。
	肺炎・胸膜炎	肺炎が胸膜におよんだり胸膜の炎症で強い胸痛がみられる。
	*急性肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）	突然の息苦しさ、胸痛、動悸、失神など。下肢静脈などの血栓（血の塊）が肺血管を塞いで発症。緊急性がある。
筋肉・骨・神経	肋間神経痛	肋骨に沿った神経が障害されて片側の胸が痛む。深呼吸で強くなることがある。
	肋骨骨折	痛みは、深呼吸・体を動かした時・咳などで強くなる。
	带状疱疹	体の左右いずれか片側に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点と小さな水ぶくれが帯状にあらわれる。
消化器	逆流性食道炎	胸やけ（胸やみぞおちが焼けるように痛む）が一番多く、胃もたれ、吐き気などがみられる。
心因性	心臓神経症	心臓には異常はないが、ストレスや不安などにより、胸痛、動悸、息苦しさがみられる。

#### 【急性肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）】

- ・肺の血管（肺動脈）に下肢から流れてきた血栓（けっせん：血のかたまり）が詰まる病気のことを、肺血栓塞栓症と言います（図）。
- ・水分を十分にとらずに、車の中や飛行機、災害時の避難所などで長く座った状態で動かないでいると、発症しやすくなります。
- ・肺動脈が血栓で詰まった肺では酸素を取り入れることが出来なくなります。詰まる程度により症状は変わりますが、大きな血栓が詰まった場合には死に至る危険な病気です。

#### 【緊急性のある胸痛（表で\*印のついた病気）では必ず救急要請】



- ・突然発症したかつて経験したことのない激しい痛み、胸の締め付け感や圧迫感、背中の激痛
- ・安静にしても15分以上続く場合
- ・呼吸困難、冷汗、吐き気、嘔吐、顔色不良、意識障害を伴う場合

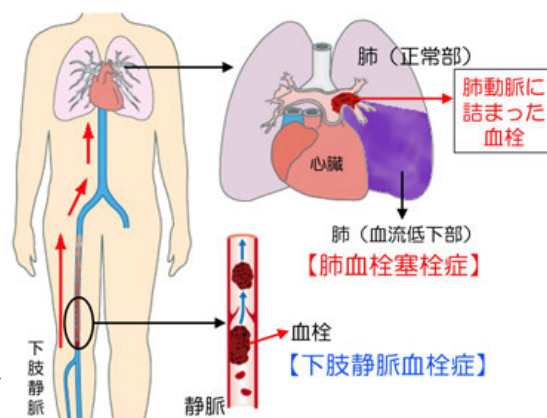


図 肺血栓塞栓症の成り立ち

## Q & A（質問に答えて）

Q： 子ども用救急医療電話相談（#8000）で受けた説明が、急患診療センターへの電話相談と違っていたのですがなぜですか。

A： 救急医療相談電話（子ども用：#8000、大人用：#7119、午後7時から翌朝午前8時）は、夜間の急な病気やけがで、すぐに救急車を呼ぶべきか、自分で医療機関を受診すべきか判断に迷った時に相談すると、看護師等から受診の必要性や対処方法、受診可能な医療機関の案内を受けることができます。

しかし、対応する看護師が、新潟の医療状況や急患診療センターの診療体制をよく理解していない場合もあり、夜間新潟市からはるか遠方の患者を紹介したり診療科がない時間帯にもかかわらず当センターへの受診を勧めることがあります。救急医療相談で当センターへの受診を勧められましたら、受診前に電話連絡をお願いします。

診療時間



★土曜日の在宅当番医

【産婦人科】

午後2時～午後6時  
 (当番医はホームページ  
 「新潟市産婦人科医  
 会」に掲載されます)

当番医は、当センター  
 にもお問い合わせでき  
 ます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後3時～翌日午前9時 (受付時間：午後3時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に  
 市民に信頼される  
 救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

9月18日は敬老の日で、新潟県全体で新たに100歳になられた方は今年度1,239人で計2,342人と報道されました。県全体で65歳以上の高齢者は令和3年で33.4%（71.7万人）で急速な高齢化が進んでいます。新潟市では高齢化率は推定で現在約30%、単独世帯は約3万と考えられ、超高齢社会を迎え、災害時などを含め身近な一人暮らし高齢者に対する支援や見守りがますます重要になってきています。

発行：一般社団法人 新潟市医師会  
 〒950-0914  
 新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号  
 TEL 025-246-1199

新潟市急患診療センター  
 ホームページ  
<http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会  
 救急疾患検索サイト  
<http://www.niigata-er.org/search/>

小児救急ハンドブック  
 (新潟市)  
 URLは変更になることが  
 あります。